（別紙4）　　令和　元　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4372500704		
法人名	社会福祉法人　不動会		
事業所名	グループホーム　おとぎの国		
所在地	熊本県山鹿市鹿本町津袋585		
自己評価作成日	令和元年12月　3日	評価結果市町村報告日	令和2年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5ー22
訪問調査日	令和元年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームの周囲には整備された庭園があり、南欧風に統一された建物は優雅さと安らぎを与えている。ホームでのケアは、理念にそって、入居者一人一人の個性や好みを把握し、寄り添う姿勢で提供している。機能的に優れ、明るく開放感のある建物内部の造り、自由な面会時間や利用者皆様の表情等に、安心と安堵感を感じられる家族が多く、「老人になったら私もここにお願いしたい。」と有難い言葉も頂いている。又、花見行事等での外出、地元子供会の訪問や地区行事（村祭り、茅の輪くぐり）等での交流の他、法人主催の夏祭りやバラ祭り･GH運営推進会議の皆様等を通じて、知人や地域の皆さんとの繋がりが拡がり、好意的な交流が十数年間続いている。

季節の木々や花が華やかに迎えてくれる事業所に入ると、緑豊かな中庭を囲み、入居者の温かな笑顔と挨拶で迎えられ、自宅に招かれもてなしを受けるような気持ちになるようでした。
日々の生活は「毎日が一人ひとりの生活」であることが職員共通の意識となり、入居者それぞれに新聞を読んだり、食事の準備や片付けへの関わりを持つ姿が日常的に見られます。外国人職員の受入れにより、最初は心配もあったようですが、逆に事業所全体に活気が生まれた様子もうかがえました。開所以来の地域との交流も継続したものとなり、相互の往来による交流が続いているようです。今後も入居者の「生活」を大切にし、より豊かな生活が継続できるような支援に期待します。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、基本方針とグループホーム独自の理念、職員憲章等を念頭におき、サービスを提供している。申し送りや会議時には、理念を基にした振り返りを行い、実践につなげてきている。	職員の姿勢、入居者の生活の事を考え作られている法人理念、事業所理念に沿ったケアが行われている。理念の言葉にある「笑顔」は職員・入居者共に事業所内に溢れている。職員入職時には理念の説明がなされ、振り返りも行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供会や地区行事（村祭り、茅の輪くぐり）等での交流の他、外出先では馴染みの方や子供達が声を掛け協力してくれている。又、法人主催の夏祭りやバラ祭り等を通じての知人や地域の皆さんとの交流も、この十数年維持できている。	地域で開催される行事、法人・事業所主催で開催される行事等を通じたつきあいが継続されている。今回の村祭りではインドネシア・フリピン国籍の事業所職員による出身国伝統の踊りも披露したりと、見学だけでなく地域の一員としての交流が盛んに行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆さんの認知症等に対する相談にも応じており、ホームの施設だよりを地域（地元の3地区）にも開放し、回覧も数年前より行ってきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月ごとに開催し、メンバーは、利用者代表、家族代表、区長、老人会長、民生児童委員、警察駐在員、市役所職員、等で構成している。地元との交流や外出行事･ホームでの日常生活等の紹介を行い、意見を求めサービス向上に活用してきている。	運営推進会議には地域代表や入居者家族等だけでなく、入居者代表、地域の警察駐在員も参加がみられ、事業所・入居者・地域・行政と、入居者を取りまく関係機関が揃って意見の交換が行われている。法人・事業所の理念も継続して啓発されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎年、市主催の行事等に参加しており、運営推進会議へは、毎回、市役所の長寿支援課からの出席があっている。市の担当者や市社協からの訪問もあり、情報交換等を行いながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃からの報告・連絡・相談等での関係作りに努めている。運営推進会議への参加で入居者の日常生活も伝えており、情報交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは法人全体の方針であり、職員全員が十分に理解している。さらに、法人内外の研修や学習会（身体拘束適正化委員会）に参加し、理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んできている。	法人全体で身体拘束をしないケアを謳っており、従来からの委員会での活動や学習会を通じて職員全員で共通理解を深めている。法人の身体拘束適正化委員会には事業所からも職員が構成員となり参加している。	帰宅願望等が見られる際には、制限することなく対処が行われる様、従来から職員間の対応等に工夫が見られている様子がうかがえました。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待はありません。職員会議でも勉強会を行い、虐待ゼロに向け全員で取り組んできている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居されていた利用者がこの制度を活用されており、研修会でも学んできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者と家族の方に、十分に説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関先や法人施設にも投書箱を設置し、寄せられた意見や要望等は真摯に受け止め、改善等に取り組む体制を整えている。	面会時等にも積極的に声を掛けることで意向を把握している。家族には入居者それぞれの様子や写真、担当者からのコメント等を送付し、家族との良い関係作りにも繋がっている。運営推進会議等でも意見を表す機会があり、意見は改善に取組む体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホームでの会議や打ち合わせには、自由に意見を出し合える雰囲気と時間がある。GHの理念は、当時のスタッフ全員の意見から生まれており、行事や環境･ケアプラン等の改善に活用し反映している。	毎月の職員会議では、業務やケアについてだけでなく、職員の意見を述べる機会ともなっている。日頃からも日々申し送りで意見が出ることも多く、都度、また必要に応じて法人での対応を行い業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場であり、職員の資格取得支援体制も充実している。更に、自己評価や外部評価等に取り組むことで、自己分析と共に、職場環境や意識を改革し、向上させて行くことが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、法人での施設内研修会（事例研修発表会）を実施している。県や市主催の研修会やグループホームのブロック間研修会等にも参加し、能力アップに努めて来ている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地区のグループホーム等と定期的に講師を招き、問題点や取り組みの方法等を学びながら、サービス向上に向け取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では、特に注意し、時間をかけて、対話や状態観察を行ってきている。又、本人が不安になられないようにと雰囲気や環境に配慮し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当初に限らず、その後の面会時にも家族等と相談する機会を設け、要望等を聞き、安心されるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居日やその前後に、本人や家族･担当ケアマネージャー等より情報を得、相談しながら、必要なサービス等を取り入れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自立支援に繋がるのか、楽しく過ごせているのか等を念頭に置きながら、サービスを提供している。又、以前からの生活や本人が得意とされていたことを聞き、教わったりしながら、関係を築いていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に（年4回）写真入りの便りを発送し、面会時にも近況報告等を行い対話に努めている。又、知人宅訪問やお墓参り･病院受診などは出来るかぎり家族支援でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながらのお墓参りや法事などの他、同郷の友人･知人の訪問もあり、以前からの馴染みの関係が維持されるよう支援している。今年は、東京など遠方の知人の面会もあっている。	地域行事への参加や外出、また地域からや知り合いの来所等が継続している。入居者と家族の関わりも大切にしており、家族行事や家族との外出、外食等、変わらない関係が続いている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者皆さんの性格や相性をスタッフが把握し、トラブルを防ぎながら、協調性を高め合える環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当方からは、前入居者の方を訪ねており、必要に応じては当時の経過等を説明している。又、退所された方や家族が来荘される時もある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの奥にある思いや希望する暮らし方などの把握に努め、本人の意向を第一に（困難な場合には、表情や反応から検討した本人の思い･家族としての思い等…）考え支援している。	職員は入居者との日頃の関わり・寄り添いから意向を把握している。特に入所間もない入居者には時間をかけじっくりと寄り添い思いを把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、前担当ケアマネージャー等からの情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族との対話やスタッフ間での確認･観察記録等での情報により、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望をくみ取りながらも、利用者の残存機能をどう活用していくか、どう向き合い何を大切に取り組んでいくか等を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	入居者を担当する職員だけでなく、職員会議等を利用し全職員で入居者それぞれについて話す機会を持っている。モニタリングを得て検討した内容は介護計画へ反映し、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック表や個別のチェック表を通して、 また、体調異常時や経過観察等の情報もスタッフ間で共有し、ケアの実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人全体の施設には、多種多様のケアサービス体制が出来ており、それらを活用し、その時々に生まれるニーズに対応して、生きがいや喜びを感じられる様な柔軟な支援ができるように取り組んできている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援できている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関で適切な医療を受けられるように関係を築いており、情報も提供している。	入居前からのかかりつけ医の受診を支援してる。現状、殆どの入居者が協力医を希望されている。定期受診は職員介助にての通院、体調により往診もある。その他専門医受診はできるだけ家族による通院介助を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の個々の体調や状態の変化に応じて、適切な受診や看護支援が受けられるよう協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態変化や状況に応じて、早期の対応が出来るよう医療機関との関係づくりを行ってきている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームへの入居時より、重度化された場合の事業所で出来る範囲の対応について説明し了解を得ている。終末期となる時期には再度家族と話し合い、医療等に関する希望を確認しながら対応している。「終末期もここでお願いしたい……。」と希望される家族が多く、今日まで、9名の方を看取って来ている。	入居時及びその時を迎えた時等、都度入居者と家族の意向を確認しながら出来る範囲での支援を行っている。協力医と看護師の随時回診もあり、家族の安心も大きい。医療措置が必要となった場合は医療機関へ移行される場合も見られる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当は職員全員が行えるよう勉強会を行ってきている。又、隣接の法人施設にはAEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回、消防署立ち会いでグループホーム単体での避難訓練を行い、その時には、隣り近所にも協力依頼の声かけを行っている。又、法人全体で開催される避難訓練にも参加し、地域との協力体制の他、運営推進会議でも災害時の対応や協力体制等について検討を行ってきている。	年2回の避難訓練では都度消防署からの講評を受け、意識を高めている。避難訓練では消火器訓練等、もしもの時に備え職員も実際のこととして臨んでいる。地域や法人とも協力体制についての検討を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳とプライバシーの保護は施設の方針でもあり、一人ひとりの性格等に配慮した言葉かけや寄り添うケアを心掛けて来ている。	職員は日頃から入居者に対し配慮した声掛けや対応を行っている。入居者それぞれの状況により、より細かで配慮が必要なケースもあるが、対応する職員を変える等工夫しながら都度支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会や特別な日には本人の希望メニューを準備し、日々の暮らしやショッピング、外出時の食事等でも、本人の思い（判断）で決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や朝食は希望される時間帯であり、起床と就寝にも時間の幅を持たせており、行事のない昼間は、各々が思い思いのペースで過ごされる日が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、訪問美容（理容）等を利用されている。又、特別な日や外出時の化粧や服装もその人らしい身だしなみ等ができるように相談しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューやおやつ等、相談しながら決めているし、準備や片付けなどを一緒に行い、食事も一緒にとり、会話を楽しみながら過ごしている。又、利用者の誕生日会や記念日等特別な日には、皆さんのお好みメニューを準備し、お祝いしている。	入居者の要望やリクエストも取入れて栄養士の資格を持つ職員が作成した献立により、職員手作りの食事を提供している。食事時間は職員も同じ食事で食卓を囲み会話を楽しんでおり、家庭での食卓を思わせる。入居者の誕生日にはそれぞれの希望メニューが献立となる。	慣れ親んだ季節の食材や保存食も利用した家庭料理を喜ぶ入居者の様子が見られました。従来から取り組まれている早食い予防の「笑顔」での食事も日常のこととなっています。高齢化も進んでいるようですが、出来るだけ食事全体への入居者の関わりが継続することに期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスを受け、栄養バランスや水分量に注意しながら行ってきている。又、季節感のある食材を取り入れ、食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師から口腔ケアに係る技術的助言・指導を受け、各々の口腔状態に応じたケアを行い、口腔内の清潔保持に努めて来ている。又、法人内で定期的に口腔ケア委員会の会議を行うと共に、食後の口腔ケアを誰が行ったかも記録している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。その人の状態に適したおむつ（パンツ）を使用すると共に、パターンに合わせてトイレ誘導･介助を行い、排泄の自立にむけた支援を行っている。	自立、誘導、おむつ等の利用と多岐に渡るが、入居者それぞれに合わせ、適宜声掛け等を行い、出来るだけ自立に向け個別支援を行っている。安易なおむつ利用への移行は行わず、また薬に頼らない排便を目指し、食材の成分把握等にも取り組み摂取・検討に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を使った料理やオリーブオイル･きな粉豆乳など飲食物の工夫と水分補給･日中の運動等で、便秘予防･自然排便に努めて来ている。今年（11月）の事例研究では、このテーマに取り組んだ研究発表を行った。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に応じ、いつでも入浴できる体制をとっている。入浴中の安全な見守りと体調管理に、特に注意を払ってきている。	入居者の希望によりいつでも入浴が出来る体制を整えている。拒否が強い場合でも清潔保持のため着替えは行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立支援と各々の生活習慣が基本であるが、昼間の離床と体調に応じての運動、少し活動的に過ごすこと等で夜間安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況を書面で記録しており、効能や副作用、症状の変化等についても話し合い理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞を読むのが楽しみな人、料理（台所仕事）や書道が好きな人など、それぞれの好み･得意分野があり、それらを活用し、生活の中で張りのある日々を送られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の外出や祭り等の見学、古里訪問、散歩、茶話会などを行ってきており、ホームの周辺にはバラ園や菜園など散歩や外気浴に適した場所が多い。又、古里訪問や知人宅訪問などは家族の支援でもお願いしている。	日常的な散歩や日向ぼっこも行われており、敷地内のバラ園や菜園も楽しみとなっている。関連事業所の訪問や買い物、また地域の保育園・小学校の訪問、地域行事や故郷訪問等、多岐に渡る外出が見られる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショピングや外食時等には、各々での支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	便りや贈り物等へのお礼の他、本人の要望があれば、電話をかけ家族等と話をされている。遠方のご家族からの電話等は特に喜ばれ、毎年、年賀状も出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が吹き抜けで、二カ所のリビング（居間と食堂）がガラス越しに眺められる。光の庭や玄関の周りは、各々が一つの庭園であり、自然の光や季節の草花を楽しみながら過ごせるようになっている。	中庭を囲む建物はどこにいても職員・入居者の気配を感じることができ、明るく開放的な空間である。敷地内、事業所内共に季節の花が彩りを与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気や気候に応じて、玄関横のベンチなどで外気浴をしたり、居間のソファーや食堂で、気の合った人々と思い思いに過ごしたりもされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた馴染みの家具（タンス、机、椅子）や思い出の品品、家族の写真などが持ち込まれており、面会時にはその部屋でお茶を飲んだり、アルバムを見たりして過ごされることが多い。	ベッドと洗面台が備え付けられた居室の扉にはステンドグラスが施され、明るさ・華やかさが見られる。居室内には座椅子やテーブルを持ち込まれ、面会の家族とも思い思いに過ごすことができる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーの構造で、見通しもよく、各々の行動や居場所も確認しやすい。歩行器を見つけ運動される人や空いている居間のソファーで談話したり休息される方々もおられる。		

★USBに入力し提出してください

２　目標達成計画

事業所名　グループホームおとぎの国
作成日　令和２年２月１６日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	40	①食事のメニューやおやつ等、利用者皆さんと相談しながら決めている。 ②食事の準備や片付け等を一緒に行い、同じ食事を職員も同じ食卓で食べている。 ③誕生会や特別な日には、本人の好きなメニューを取り入れ、全員でお祝いし、時には嗜好品も提供している。	①食事を楽しみ、大切にする姿勢を続けて行く。 ②季節感や記念日を大切にし、旬の食材や頂き物、皆さんの好みを活かしながら献立を作成していく。 ③利用者皆さんと共に食事の準備や食事作りを行い、一緒に同じテーブルで食事をとる。同時に早食い予防の「笑顔」での食事を継続し楽しんでいく。	①入居者の誕生日当日には本人のリクエストメニューを準備し、全員でお祝いし食事を楽しんで頂く。 ②利用者の要望に応じた献立を作成し食事を楽しみながらバランスの良い食事を提供していく。 また、チラシや料理雑誌を見ながら、献立を考えていく。 ③入居者が好まれる慣れ親しんだ季節の食材や保存食を利用した家庭料理を継続していく。	継続
2	6	①身体拘束をしないケアは法人全体の方針であり、職員全員が理解している。法人内外の研修や勉強会に参加し理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んできている。	①身体拘束をしないケアや施設の身体拘束マニュアルを職員一人一人が再度しっかり把握していく。 ②帰宅願望等が見られる際には今まで通り制限する事なく対処していく。	①現在の支援方法が身体拘束にあたらないか検討し、利用者の立場に立った支援を継続していく。 ②身体拘束をしないケアや施設の身体拘束マニュアルの勉強会を続けていく。 ③帰宅願望等の際には散歩や日光浴等のように一緒に行動する。また買い物同行や古里訪問を続けていく。	継続
3					
4					
5					

注１）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注２）項目数が足りない場合は、行を追加すること。